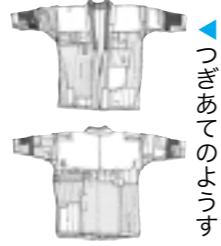


# ところざわの暮らし今昔

## 春に備えた針仕事

3月6日は啓蟄。この日には、冬ごもりをしていた虫が這い出すといわれ、寒い中にも春の足音が感じられるようになります。そんな中、農家の女性たちは、春からの農繁期に備えて野良着の準備に追われました。野良着は、昭和30年代までその多くが女性の手で縫われ、形態は男性がコシッカリとモモヒキ、女性がコシッカリとオコシ（腰巻）というものでした。コシッカリは身丈が腰までの短い着物で、男物は木綿の紺無地や縞、女物は主として紺で仕立てられました。モモヒキは、祭りで山車を曳く若い衆がはくものと同じ形であり、布地には木綿の紺無地が用いられました。女性のオコシは、夏物が紺、冬物がネルや捺染木綿の袴です。また、女性の間では、第二次世界大戦中からモンペが普及しました。



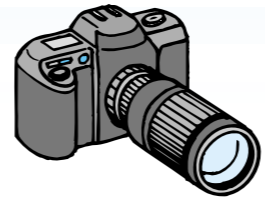
こうした野良着は、1年間着用するうちに方々が傷んでしまいます。中でも、負い荷に擦れる背中や肩山は布地が薄くなり、切れて穴が開くことも少なくありませんでした。そこで、農閑期には傷んだ野良着をほ



いて縫い、洗ってから傷んだ箇所をすらしで縫い返したのです。こうすることで、野良着の寿命を延ばすことができました。また、縫い返してさらに傷んだ野良着はつぎをあてて縫われ、中には、もとの布地が判別できないほどにつぎあてされたものもありました。これを指して、「東海道よりひどい」といいます。東海道は五十三次。つまり、それよりもたくさんつぎがあたっていたのです。そして、着物として耐えられないほどボロになった野良着は雑巾などに縫われ、最期まで利用されました。まさに、衣料リサイクルが暮らしの中で完成していたのです。（宮本）



会場は、薄れた空気に包まれ、皆さんの力強い演武が披露された「第11回武進祭」(撮影/市民カメラマン・西山元博) 2月25日(日)/市民武道館



「屋さがりのひととき、紅茶とクッキーをかたわらにクラシックの名曲に耳を傾けた「ハートフルコンサート」。」 1月25日(水)/男女共同参画推進センターふらっと

# 街の写真館



▲市民の皆さんによる合唱やオーケストラの演奏。その圧倒的な力強さが、所沢にも春を運んでくる予感を感じさせた「所沢で第九を」。2月5日(日)/市民文化センターミュージズ・大ホール

# みんなのなごみ広場

## 防災チェック



～地域ぐるみで防災に取り組もう！～

子ども：お父さん、大地震で家が壊れたり、火災が起きたりしたら、すぐに消防車は来るのかな？  
お父さん：市内のあちこちから同時に火災が発生するとすぐに到着するのは、無理だと思うよ。  
子ども：じゃあ、どうすればいいの？  
お父さん：そのときはね、地域に自主防災会というのがあって、みんなて協力して、消火はもちろん、救助や避難の手助けなどをすることにな

っているんだよ。  
子ども：ぼくたちの住んでいるところにも自主防災会はあるの？  
お父さん：もちろんさ！でも、自主防災会がない地域もあると聞いたよ。  
子ども：早くつくらないとだめだね。  
◎阪神淡路大震災や新潟県中越地震では、倒壊建物などから救出された人の多くが、近所の方々によって救出されました。自主防災会の詳細については、お問い合わせ 危機管理課(☎2998-9399・FAX2998-9042)、消防本部警防課(☎2922-5117・FAX2924-5186)



# はつらつとこ 野老 子

## 本物の雅楽を体感して欲しい

岩波 滋さん (若狭在住)



日本で最も古くからある、音楽や舞を表現した『雅楽』。宮内庁楽部の楽師が演奏する雅楽は、国の重要無形文化財に指定され、日本最古の伝統音楽が長い歴史の中で継承されています。今回は、同楽部の首席楽長の岩波さんのお宅にお邪魔して、お話を聞かせていただきました。岩波さんの専門とする楽器は、雅楽で使う管楽器の一つである『笙』です。



笙の演奏

目の前で聞かせていただいた笙の音色は、どこか懐かしく居心地の良さを感じます。とても繊細な楽器で内部が結露しやすく、火鉢などで楽器を暖めながら演奏することが必要です。その発音の原理は、バイフルトンなどと同じで、息を吸っても吐いても切れ目なく音を出し続けることができます。「雅楽の演奏は、個人の情念を超えた無の世界を表現している。この空間に身を置くことで、初めて見えてくるものがある」とその魅力を語ります。また、「世の中は便利にな

り映像などの情報が氾濫して、お金ですべてといったような風潮もあるが、もっと大切な人間としての本質的なものを感じさせてくれる世界が雅楽にはある」とも表現します。岩波さんは、雅楽の世界に入って半世紀になります。若いころはうまく演奏しようと考えましたが、今では楽器に吹かせてもらっているといった気持ちで、自然体で演奏できるようになったとか。何よりも、雑念を払い楽器仲間との信頼関係(あ・うんの呼吸)を大切に、調和の世界をつくりだします。

岩波さんは、ライフワークとしてボランティアで小学校などへ出向き雅楽の演奏をしています。「笙の魅力は奥が深く無限大です。日本の伝統的な音楽に触れることで、子どもたちに何かを感じてもらいたい。本物との出会いが大切なんです」と目を輝かせながら話してくれました。この春には宮内庁を去り、大きな責任から開放される岩波さんですが、ボランティアや後輩の指導にと今まで以上に充実した時間が待っています。

# とこごとこり 町内会めぐり

## 【並木地区・こぶし団地自治会】

～少子高齢化時代を迎えた自治会活動を～

こぶし団地は、都内の民間労働組合が中心になって建設した住宅で、昭和41年に入居が始まりました。自治会は1,030世帯の大多帯で、共有地や2つの自治会館と非常用井戸、防災機材庫等、多くの共有財産を保全するため法人格を取得しました。管理組合の機能も併せ持ち、生活全般にわたる相談を受けるとともに、はしご・リヤカーなどの貸し出しも行っています。

入居当時は、商店や保育所、診療所の建設、学校新設や基地返還運動など、活動は多岐にわたりました。阪神淡路大震災を契機に、新潟県津南町との間で「災害援助協定」を結ぶとともに、団地入口に国土庁(当時)の支援で、災害時の備蓄庫の機能を備えた「津南ふれあいセンター」を建設しました。この関係からこの冬、津南町が大雪に見舞われた際、自治会をあげて援助しました。

さらに、団地内には神社仏閣はありませんが、団地入居以来の物故者の慰霊のため、自治会館前に「こぶし地藏尊」を建立しました。入居開始から40年を経て、少子高齢化の時代を迎え、今では行事も桜祭りや盆踊りの2つになり、高齢者や障害者などの車いす生活者への支援や通路整備に腐心するこのころです。



団地周辺には航空記念公園もあり、カルチャーパークも整備されつつあります。また、市役所や市民文化センターミュージズなどの公共施設も多く設置され、住みやすい地域へと進展しています。

木々は、新芽から成長して巨木になります。そして私は、同年代の方々に成長させてもらっています。市民大学に入学、知らなかつたことを学び、問題を提起され、それを調べるために歌舞伎の講義を聴いて鑑賞もしました。また、介護を学びヘルパーの資格も取得し、ごみ問題では、東部クリーンセンターへ見学に行き、身の回りの環境にも目を配るようになります。高年齢者大学では、さまざまな人々の出会いがあります。同年代の男性と会話ができるようになり、同性の方の生き方に感動して見習わなくてはとも思うようになり、参加したことで、気づかずにいたことを気づき嬉しくも思います。いつまでも好奇心を持って行動していきます。

### 同年代

中新井・高橋 祥子

### 高山植物の強さ

和ヶ原・田中 隆清

### 心の成長

北秋津・大島 康子

次回のテーマは「家族」です ▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を年齢・電話番号を明記▶送り先: 〒359-8501・並木

募集▶はがきに300字以内▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「家族」▶締め切りは3月7日(火)必着▶住所・氏名・年1-1-1 所沢市役所秘書広報課▶みんなの広場。係▶Eメール(アドレスa9024@city.tokorozawa.saitama.jp)も可。

誰でてもイイ

テーマ 成長

